

平成 28 年度 第 1 回日本医学健康管理評価協議会ワーキンググループ  
議事録

1. 日時 平成 28 年 6 月 2 日(木)14:00～15:30

2. 場所 日本医師会館 507・508 会議室

3. 参加団体

結核予防会、日本人間ドック学会、健康評価施設査定機構、全国労働衛生団体連合会、全日本病院協会、日本総合健診医学会、日本対がん協会、日本病院会、予防医学事業中央会、日本医師会、日医総研、日本医師会事務局

4. 議事内容

1) 報告事項

①糖尿病性腎症重症化予防プログラム(厚生労働省)……………(資料1)

⇒資料 P.20(p14) 注 12 にて、健診標準フォーマットが紹介され、健診実施機関が有する健診データ仕様の標準化を推進することが重要とされた。

②国民の生涯を通じた健診情報の一元化を目指した「健診標準フォーマット」の推進と活用について……………(資料2)

⇒平成 28 年 5 月 19 日、日本健康会議において発表した。

③平成 29 年度概算要求要望……………(資料3)

⇒日本医師会より厚生労働省に向けて健診データの標準化のために「2. 健康寿命延伸への予算確保」として財政支援を要求した。また、その額は p22. H29 新規として 34.6 億円要望した。

④健診標準フォーマットへの変換による健診項目に関する一次分析結果と画像所見コード化のための作業過程について……………(資料4)

⇒目的は、データの特性を確認し、整備すること。その後、医学的見地から検討する

⇒サンプルデータは、17 施設から 1,483,197 件、分析対象データは、772,590 件。(詳細は資料)

⇒血圧、腹囲など、検査方法やほかの要員で分布がゆがむ事象がみられる。健診の精度に問題があるのではないかと紹介された。また、特定健診の検査項目見直し議論に向けて、HbA1c、LDL 等の特性値も検討したとの話題提供があった。あくまで、例としての報告である。

⇒日本健康倶楽部様から膨大なデータが提供されている。「学童から国保健保までの幅広いデータを全国規模で集計している。このため、データ一本化を目指していて、健診標準フォーマットに期待する」と発言された。

⇒画像所見コード収集状況について報告があった。全衛連加盟団体 87 施設から収集した。今後、画像所見コード化推進WGを立ち上げて、標準コードを策定する。日医から各団体に対し担当者の推薦を依頼することになった。

⑤健診データ標準化と健診標準フォーマットの普及に関する平成 28 年度の進め方について……………(資料5)

平成 28 年度標準化作業のスケジュール(案)が示された。P5

## 2) 協議事項 p6

### ① 日本医学健康管理評価協議会 WG 平成 28 年度の進め方について

#### A) 健診データの標準化について

(ア) 健診データ管理のための品質保証ガイドラインとして管理項目と由来情報の標準化作業を行う。

⇒ 了承された。

(イ) 所見等の標準コード集の作成を行う。

日医から各団体に対し担当者の推薦をお願いし、年内を目途にコード集を仕上げ、本協議会で決定する。おって、日医から各団体に通知する。

⇒ 了承された。

(意見)ドック学会武藤委員: 診断と所見は別にして考える必要がある。

日医羽鳥座長: 検討する全体像を示し、具体論に落としてほしい。

#### B) 健診データの相互利用に向けた基盤整備について

(ア) 個人情報保護に関する検討

(イ) データ利活用のための規約等の検討

かかりつけ医を中心とする相互利用を視野に、第三者提供も含め、法案との動きに合わせて年内には検討を行う。

(意見)日本病院会大道委員: 個人情報保護法改正に合わせる必要がある。

日医羽鳥座長: データ利活用について積極的に整備していくことが重要。

日医吉田委員: 施設でデータの標準化がされることが第一。すでにいくつかの県では健診データをまとめ始めている。今後は個人情報付きでデータベース構築を進めていきたい。また、NDBとは全く違うものとし、かかりつけ医等が利用することを目的とする。

日本病院会大道委員: 発生源のデータをきちんとしなければならない。医療機関側からアプローチして生涯データを作ればいいのか。

#### C) 健診標準フォーマットの普及について

各団体においては電子媒体のフォーマットを共通化するために、健診標準フォーマットを顧客に広めるとともに普及推進を進めていく。そのために、

(ア) 健診標準フォーマットの健診施設への変換ツールの提供を行う。

⇒ 了承された。

(イ) 健診データ標準化のインセンティブに関する検討を並行して進める。

⇒ 了承された。

#### D) 健診標準フォーマット・健診標準フォーマット普及のための体制整備について

- (ア) システム開発及び変換ツール運用業務のための法人設立等に関する検討  
⇒ 国家予算、ほかの資金の受け皿を作る必要があるので、法人化等  
に向けて検討を開始することが了承された。

(意見)結核予防会竹下委員:法人立ち上げはH29年の予算が見えてからでもいいのではないか。

全衛連水谷委員:委員会など必要な費用は団体で出す用意はある。

日医吉田委員:国の動きが速いので急ぐ必要がある。法人化については日医で検討して進めることにする。

## 5. その他

### 1)共同宣言日程について

6月25日の日医役員改選後とする。会見方法もその後検討する。

以上